

第2回 新・首里杜構想検討部会 議事要旨

日時：令和2年10月28日（水） 9時30分～12時10分
場所：沖縄県立図書館 3階ホール
出席者：池田孝之部会長、田名真之部会長代理、いのうえちず委員、
越智正樹委員、
上原静委員（WEB参加）、神谷大介委員（WEB参加）

新・首里杜構想の策定について

- ◆ 新・首里杜構想の理念や方針においては概ねこれでいいと思う。次回の部会では復興基本計画に盛り込むべき優先すべき具体的な取組をしっかりと議論したい。
- ◆ これまでの首里杜構想の進捗整理について、現在、収蔵庫機能など、当時がない考え方が増えている。新しい理念のもとにどのような整備をしなければならないかの整理が必要。

中城御殿等について

- ◆ 中城御殿の整備も具体的に決める必要がある。城郭内整備に関わる収蔵庫の問題にも、県はしっかりと意思を表明すべき。
- ◆ 御茶屋御殿、円覚寺をどう位置づけ、どう整備をしていくか明確にすべきである。
- ◆ 首里城一点集中型ではなく、魅力資源を面として捉えた整備をし、回遊させる形が望ましい。

歴史資源について

- ◆ 遺構の復元などの際には、世界文化遺産登録の意義も踏まえ、遺跡の真実性を重視した。この考えを踏まえた整備が必要。遺構以外のものも復元したものとの共存が必要。
- ◆ 開発に伴い今後も遺跡の発見が想定されるが、それらを共存させながら活用することが課題。

交通について

- ◆ 新・首里杜構想の方針案に「総合的な交通対策」とあるが、まずは定量的なデータに基づく議論を行い、その議論を踏まえ、目標を設定すべき。
- ◆ ハードだけではなくマネジメントも重要。

連携・推進体制

- ◆ 連携体制は計画期間で終わるものではなく、継続的に運営され、自走するものであるべき。また、連携体制には教育機関も追加する必要がある。
- ◆ 連携体制は、有識者が前面に出ない方がいい。NPOや専門家集団も含めた「団体等」とし追加すべき。
- ◆ 体制とは大学、住民、事業者も含めて継続的に議論できる場というイメージ。
- ◆ 首里杜地区の住民が、50年後の首里のまちを見据えた「首里まちづくり憲章（仮）」を提起する予定。まちづくりとともに観光、交通などの課題解決に取り組み、成功すれば全県のモデルにもなると期待している。50年後の首里のあるべき姿の実現に向けて、住民も一緒に動いていきたい。